



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

ひたむきに 紡（つむ）ぐ

校長 萩原 哲哉

公民館の裏庭に咲く色の濃い紫陽花（あじさい）の花が、校門前の道を鮮やかに彩ってくれています。紫陽花の花は、その時の土の状態により、同じ株であっても違った色に咲くことから、「七変化」とも言われています。土壌をその時の体調や心持ちと考えると、人もまさに「七変化」なのかも知れません。

学校でもさまざまな行事を通し、子どもたちがいろいろな色に「咲いて」います。6年生・大谷小学校との親善球技大会。大音量の声援・歓声の中、両校・全員が、「自分の全力」を出し、立派な態度で臨んでくれました。また校内音楽会では、各学年とも練習を重ね、他学年だけでなく地域や保護者の皆様方に「聴いていただく」ことを大切に、それぞれ立派で堂々とした発表をしてくれました。特に合唱はどの学年の歌声も素晴らしいもので、今、この時、このめんばーでしか出せない歌声が、アリーナいっぱい響き渡っていました。

その中で5年生が歌ってくれた「ふるさと（小山董堂 作詞）」という曲に、次のような一節があります。

「ひたむきに時を重ね 思いを紡（つむ）ぐ」

とても美しい日本語だと思います。「ひたむきに」は、漢字で「直向き」と書き、一つの方向を真っ直ぐ向き続ける、すなわち、一つの物事に熱中したり一生懸命になったりする様子を言います。また、「紡（つむ）ぐ」は、蚕（かいこ）が吐き出す繭（まゆ）から繊維を引き出し、一本の糸にすることの意味、ここから、小さなことを重ねて、大きな形にしていくことの意味を持ちます。すなわち先程の歌詞は、「一生懸命に毎日生き 自分の希望・心・思いを 少しずつ一つの形にしていく」といった意味にとらえることができます。「言葉」「心」「命」「人生」「縁」「夢」…なども、「紡ぐ」ものとして使われています。

曲名は「ふるさと」。見えない未来に向かって、今を一生懸命に生きること、その生きた場所が「ふるさと＝心のよりどころ」になる、そんな思いが感じられます。

一つひとつの行事を通して、子どもたちは教室の学習だけではできないことを経験し、たとえ蚕の糸ほどの細さであったとしても、確実に何かしらの収穫を得て、成長していきます。心が紡がれていく、ということなのでしょう。御家庭におかれましても、さまざまな学校行事を通して、お子様の頑張りを認めていただき、称賛していただきながら、「次」への励ましをいただければと思います。

